



Title	2019年度 意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	面矢, 慎介
Citation	デザイン理論. 2020, 76, p. 5-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76921
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2019 年度 意匠学会論文賞選考結果報告

2019 年度学会賞選考委員会

委員長 面矢慎介

受賞論文

下出茉莉氏

「迎田秋悦の創作活動における複製制作の意義」

受賞理由

下出氏の受賞論文「迎田秋悦の創作活動における複製制作の意義」は、京都を拠点に活躍した蒔絵師である迎田秋悦（1881-1933）による古典作品の複製を主題として、複製品の制作が彼の創作活動の中でどのような意義を持つものであったかを秋悦自身の言説を手掛かりに論じたものである。

論文では、多くの先行研究に基づいて当時の漆芸界における秋悦の蒔絵師としての評価を明らかにするとともに、秋悦の蒔絵観を講演記録、寄稿文から考察し、現在確認できる秋悦による2点の複製品の意義を論じている。そして秋悦の複製制作が単に伝統の継承や習作を行うための作業ではなく、その時代の精神性や美意識を学び取る重要な行為であったと結論づけている。

複製品については、従来、創作性や個性が欠如した制作物として、創作の一段下のものとみなされがちであったが、下出氏の論文は複製品の制作から作家の思想・創作活動を読み取る可能性を示唆している。また、デジタル化が進む現代社会における伝統的な手仕事の持続性と独自の発展性を考える際にも、見逃すことのできない普遍的な手がかりを提示していると言えるだろう。

選考経緯

本論文賞は『デザイン理論』74号、75号掲載の「学術論文」9編を対象とした。本年度選考委員は天貝義教、末包伸吾、吉田雅子、並木誠士の各氏と面矢慎介だが、吉田氏が選考を辞退されたため残り4人での選考となった。

選考方法は昨年度までと同様で、各委員がそれぞれ上位5編の論文を選び、1位から5位までを順位づけし、これを1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点と点数化し集計した。その結果、下出論文が最高点となった。また、4人の委員全員が上位5位以内に選んだのは下出論文のみであった。